

〔資料紹介〕

# 佐渡冠婚葬祭調査要目 (1)

池田 哲夫

前号では、民間伝承の会佐渡支部の中山徳太郎と青木重孝が中心となって、「佐渡年中行事」調査のために作成した「佐渡年中行事調査標目 其の壹 正月編」「佐渡年中行事調査要目 其の貳 後編」について資料紹介をした。中山と青木は一九三八（昭和一三）年に『佐渡年中行事』を刊行後、一九四〇（昭和一五）年に、「佐渡冠婚葬祭」の調査を計画している。中山はこの年に医師を廃業し佐渡の民俗研究に専念しており、冠婚葬祭調査は『佐渡民間伝承叢書第四集輯』として計画された。

しかし、冠婚葬祭は調査段階で終わり、編纂、刊行されることはなかった。これには、中山が病気になることや太平洋戦争などにより調査が中断されたこと等が考えられるが理由は不明である。

本号では、中山、青木によって謄写刷りB五判一五頁の「佐渡冠婚葬祭調査要目」が作成されているので、以下、紹介する。

なお、調査項目の中には今日の人権意識からみれば不適切なものも含まれているが、当時の社会的、歴史的な認識をそのまま資料紹介するという観点から、そのまま掲載した。

昭和十五年五月

佐渡冠婚葬祭調査要目

中山徳太郎

青木重孝

此の「佐渡冠婚葬祭」の調査は、佐渡民間伝承叢書第四輯をなすもので、出版の節は調査者に一本を献じます。又諷書中には調査報告者の名を永久にとゞめ、日本民俗学に対する御貢献を空しくしませぬ。是は既に第一輯に於て実行した所であり  
ます。

佐渡人の一生涯は、此の書に収められる習俗に支配されて居た事を明らかにしたいのです。「婚姻」「産育」「送葬」の三部に分けて包含致します。

出来るだけ昔の方法を、出来るだけ詳細に調査して貰ふ事をお願い致します。是が学問的要求であるからであります。

調査心得  
欠の

調査全般に亘つて、是非共次の事項を十分に留意し、実行して頂き度い。折角の努力を学問的に役立てる為には、不可基本的事項なのであります。

### 1 採集先決

われ／＼祖先の信仰とか生活とかは、此の冠婚葬祭行事の中に伝承されて居るのでありますが、それらも時々刻々に姿を変へつゝあるのが現状であります。今にして採集記録して置かないならば、祖先の尊い遺物を永遠に失ふことになり

### 2 調査地域

各町村少なくとも一ヶ所以上の部落を調査する必要があります。それは一つには行事其のものが隣接部落間ですら異なる点が多いからであります。一つには出来るだけ多くの調査を比較分類する事が新しい方法となつて居るからであります。調査部落（大字或は小字を単位とするのが妥当です）名を必ず記載して下さい。

### 3 綿密採録

簡単な記録或は特異と思はれる現象だけでは学問的の価値も極めて少ないのであります。どうか綿密に細密に隅々から隅々まで記録して頂きたいのであります。どんな小さい事の中にもそれが行はれ、言はれて居る以上は重大な意味がある筈でありますから。

### 4 昔の方法

出来るだけ昔の方法を根掘り葉掘り聞き出して記録して頂きたい。文章などは決して顧慮する必要はないのです。その伝へられて居る事実のみが尊いのでありますから。今はかうだが昔はかうであつたと記載して頂ければ申分がありません。

### 5 方言重視

総てに亘つて、土地の言ひならはしをそのまゝ採録して頂きたい。方言其のものだけでも、探り得られる大きな意味があるのであります。特に今回は方言を主として分類編纂することになつて居ります。

### 6 採録事項

#### (イ) 称呼

調査の項目の全般に亘つて、常に次の事柄に留意し調査をしていたゞきたいのであります。行事の全体及各部分、其の他すべてに亘り、行のある所には必ず呼び名がありますから、それを発音通りに記載して

#### (ロ) 日時

どんな日、どんな時刻を、何故選ぶかと云ふ事に留意して頂き度い。



## 調査事項

## △婚姻習俗

## 一、婚姻の総称

1. 婚姻の事を何と云ふか。
2. 婚姻の式のことを何と云ふか。
3. 嫁と聾では呼方が違ふか。
4. くれる方と貰ふ方とは呼方が違ふか。
5. 婚姻の仕方に色々あるか。

## 二、嫁の盛装する日

1. 花嫁、花聾を何と云ふか。
2. 盛装するはいつか。式の日は。神社に詣るには。

## 三、迎へ人

1. 聾方から嫁の家へ迎へに行く人を何と云ふか。誰が行くか。特別の風をするか。
2. 持参する祝物はあるか。其の仕方。
3. 「ムカヘコジョロウ」など、云ふものはあるか。どんなものか。

## 四、嫁渡し

1. 嫁方で嫁を渡すと云ふ作法を何と云ふか、どんな仕方がか。
2. 嫁方の当日の祝を何と云ふか、どうするか。
3. 嫁の家を出る時の作法及名称。

## 五、嫁入行列

1. 嫁の行列を何と云ふか。其の順序、作法、仕来り持参品等。

2. 聾方から途中迄迎へに行くのを何と云ふか、其の作法等。

## 六、入嫁式

1. 嫁が聾の家に入ることを何と云ひ、其の作法。
2. 嫁の入口。
3. 火に関する作法があるか。
4. 水に関する作法があるか。

## 七、中宿

1. 嫁入の途中立寄る家があるか、何と云ふか、何をするか。
2. 其の宿は聾方の村か。
3. 部落内の婚礼にはどうするか。

## 八、花嫁同行者

1. 嫁の両親が連れて行くか、何を云ふか。
2. 代理の事もあるか、何と云ふか。
3. 若い娘をつける事があるか、何と云ふか、其の役目など。
4. 聾方から嫁の世話などする女が出るか、何と云ふか、役目は。

## 九、朝聾入

1. 聾が初めて嫁の二親と対面する儀式を何と云ふか、時期はいつか、作法は。(但し嫁入儀式の前ものについて)

## 一〇、聾通しと膝直し

1. 聾入に聾に同行する者の名を何と云ふか、どんな人が

選ばれるか、どんな役をするか。

2. 聾入の式に聾の中途にして逃げ帰る風はないか。

3. ヒサナホシなど、云ひ、嫁の家と聾の家と近付きになる式はないか。

一一、打明け

1. 嫁入後始めて里へ帰へることを何と云ひ、どんな仕来りがあるか。

2. 聾が始めて嫁の里へいくを何と云ひ、どんな事をするか。

一二、結納聾

1. 結納を何と云ふか、どんな風にするか。

2. 嫁入の日より前に、聾が嫁の家へ行く風はなかつたか、どんなであつたか。

一三、手締め酒

1. 結納の前に婚約をする人を何と云ふか、どんな風にするか。

一四、見合ひ

1. 見合ひを何と云ふか、どんな風にするか。

一五、帰り聾

1. 嫁の働きを里方に提供する約束があつたか、何と云ふか、どんな風にするか。

2. 又聾も嫁方のために働くことがあるか、何と云ふか、どんな風にするか。

一六、仲人親

1. 媒酌人を何と云ふか、どんな人になるか。

2. 媒酌人の任務、責任はどんな風か。

3. 媒酌人に対する嫁聾の義理はどんなにするか。

一七、嫁の食物

1. 婚礼の日の特別の食物があるか、何と云ふか。

2. 嫁だけ或は嫁と聾の食物などあるか、何と云ふか、どんなにするか。

一八、水盛と酒盛

1. 夫婦盃の仕方と名称。

2. 親子盃の仕方と名称。

3. 近親の酒宴の仕方と名称。

4. 台所方の慰勞の饗の仕方と名称。

一九、村人の承認

1. 村人等への嫁聾の披露を何と云ひ、どんな風にするか。

2. 村人はどうするか。

二〇、若者酒

1. 婚礼の日村の若者に酒を振舞ふのを何と云ふか、其の仕来り。

2. 若者はどうするか。

3. 他村縁組と自村縁組では違いがあるか。

二一、聾いぢめ

1. 嫁聾に対し村の若者が、暴力的傾向をとる風があるか、何と云ひ、どんな事をするか。

2. 婚礼の日ばかりでなく、正月、節句などによくあるか、如何。

## 二二、部屋の生活

1. 嫁になりがけに行はれる仕来りがあるか。
2. カネなどの仕方は昔はどうしたか。

## 二三、親類成り

1. 嫁と聾との親が初の往き来には何か仕来りがあるか。

## 二四、嫁と其の親里

1. 嫁と嫁の里との関係はどんな風に行はれたか、其の名称も。

## 二五、嫁の産屋

1. 嫁の産は里でするか。

2. 孫入りの仕来りがあるか。

## 二六、杓子渡し

1. 嫁から主婦になる際の仕来り一切を聞きたい。名称や作法等も。

2. 聾から主人になる場合も。

## 二七、出入初め

1. アシイレと云ふやうな仮の婚礼があるか、之を何と云ふか、どの位の期間、どんな風に嫁は暮すか、其の理由。

2. 本式に嫁が聾方の人となる時はどうするか。

## 二八、嫁もらひ

1. 嫁の親が婚姻を承諾せぬ時、聾方の若い衆が嫁をかっぎ出すやうな風はなかつたか。何と云つたか、其の理法。

2. 何故承諾しなかつたのか。

3. 嫁の送籍の時期はいつか、其の理由。

## 二九、宿の生活

1. 若者の泊まる宿は多かつたが何といつたか、どんな家をえらんだか、その家主はどんな事をしたか、若者の家主への礼はどうしたか、其の宿に於ける生活はどうか。

2. 若者の宿に入るのは何歳か、其の式はどうか、脱退はいつか、其の作法は。

3. 娘の宿もあつたか、其について詳しく承りたい。

4. 若者の宿と娘の宿との関係及び交際等に付いて知りた

5. 以上の必要であつた理由及兼ねた理由。

## 三〇、嫁入前の妻

1. 正式の婚姻以前に男女のかたらひをつけるのを何と云ふか。

2. 其の方法はどういふ風にしたか。

3. 他村の若者は自村の娘に関係させなかつたか、どんな時に許されたか。

4. 若し関係した時は、どんな制裁が行はれたか、何と云つたか。

5. 私通から正式の関係に入るのを何と云ふか、ネンゴロ添いなど、云ふ処もあるが、それは村人からどう批判されるか、何故か。

## 三一、私生児

1. 私生児を何と呼ぶか、其の理由、其の運命。

2. 私生児には色々の呼び名があるが、其の間の差異を聞きたい。

3.    ……。

三二、独身女の境涯

1. 既婚者で夫或は妻と生別又は死別したものに名前の上でも区別があるか。
2. 結婚せずに生涯独身を通ほす男女を何と云ふか、年齢によつて名称が異なるか。

三三、自由な女性

1.    ……。

三四、絶縁

1. 離婚を何と云ふか。
2. 離婚せずとも妻が里へ逃げ帰つて居る程度のもを何と云ふか。

3. 婚約を破棄するのを何と云ふか。
4. 右の場合の原因等に付いて。

三五、所属未定

1. 婚約前の男女を何と呼ぶか。
2. 結婚年齢にある男女を何と云ふか。
3. 夫妻の呼方。
4. 後妻の事を何と云ふか、年齢によつて呼方が違ふか。
5. 妾を何と云ふか、此場合本妻を何と云ふか。
6. 家付の娘を何と云ふか。
7. 嫁が亡夫の弟と結婚することを何と云ふか。
8. 妹が亡姉の夫に嫁することを何と云ふか。

9. イトコ婚を何と云ふか。  
   ……。

△葬送習俗

三六、喪の始め

1. 死の前兆にはどんなものがあるか。
2. 呼吸が切れたときにどんな事をするか。
3. 魂呼びをどんな風にするか。

三七、葬式の総名

1. 凶事の始めから終り迄を一括した名は。
2. 仮にする葬式を何と云ひ、どんなときにするか、其の場合本式の何を何と云ふか。
3. 葬式の役割について。

三八、二人使ひ

1. 親戚への知らせの使はどうするか。

2. 誰か、人数、服装、持物、方式、理由等。

三九、寺行き

1. 寺へ通知する方法はどうか。

四〇、枕飯

1. 遺骸及喪家のしつらひをどうするか。

2. 死者に供にる食物の調製や始末の方法、それを食べる人数。

四一、ひがはり

1. 喪のある家の火は悪となると云ふが、それに対する仕来り、死忌の名称。

2. 喪の家の標識はどうするか。

四二、年たがへ

1. 忌を避けるにはどうするか。

2. 特に死者と同齢の者はどうするか。

四三、外かまど

1. 組や講中其の他の者の表敬に対する儀礼、弔問、義理等に就いて。

四四、忌の飯

1. 血族の死者並に葬家に対する作法、贈物に就いて。

2. 夜伽はどんな風にするか。

四五、葬具

1. 野道具の種類や調製はどうか。

四六、入棺

1. 湯灌・入棺の方法を聞く。

2. 特に終わつた後をどうするか。

四七、出立ちの膳

1. 出棺の時の飯食に付いて。

四八、仮門

1. 出立ちの行事のうち、飲食に関するものを除いた他の作法。

四九、野辺送り

1. 葬列に加はる種々の役割や道具、亡者の食物、親族の喪装、冠り物、髪等。

五〇、棺梶ぎ

1. 棺梶ぎはどんな人がなるか。其の作法等。

五一、野普請役

1. 墓穴掘りに関するもの。

五二、墓葬礼

1. 出立ち以後の道中からはじめて、埋葬に至までのこと。
- 五三、火葬
  1. 遺骸焼却の作法。
  2. 納骨の作法。
- 五四、野がへり
  1. 埋葬或は火葬を終へて帰宅した折の作法。
- 五五、墓じるし
  1. 埋葬直後の墓じるし、或いは墓地の様々の設備等。
- 五六、墓地の種類
  1. 墓地の用途は遺骸を埋める事と以後の祭をする事とあるかどうか。
- 五七、朝参り、夕参り
  1. 葬式の夜或いは翌朝、墓に参る例等。
- 五八、喪屋、霊屋
  1. 墓の上或は墓の付近に覆や小屋を建てる風があるか。
- 五九、釘念仏
  1. 葬式の夜に講中組内の人々によつてなされる供養に係したもの。
- 六〇、願もどし
  1. 立願ほどきの作法。
  2. 茶碗をわること等。
- 六一、水かけ着物
  1. 死者の着物に水をかける風。
- 六二、荒火明け

1. 七日或は三日などになす式。
- 六三、佛おろし
  1. 中陰行事の一つとして巫女に死者の口寄せを頼むこと。
- 六四、忌中と忌明け
  1. 七七、四十九日の忌中と忌明けの作法。
- 六五、てまどし
  1. 中陰あけ以後の問題。
- 六六、佛の正月
  1. 新亡者のあつた家では、正月を迎へるにどうするか。
- 六七、新盆
  1. 新盆行事はどうするか。
- 六八、月忌、年忌
  1. 逮夜、命日、年回等
- 六九、問ひ切り
  1. 最終年回はいつか。そしてどんな事をし、どんなことをいふか。
- 七〇、所属未定、
  1. 盆正月などに死人のあつた場合。
  2. 妊婦の死
  3. 子供の死
  4. 水死人
  5. 旅者の死

(産育習俗については次号)